

長野県更埴市

小島遺跡

——都市計画道路駅前線工事に伴う発掘調査報告書——

1989

更埴市教育委員会

更埴市遺跡調査会



目 次

I 調査の概要	1
II 調査の経過	2
III 遺構と遺物	4
1 遺構の概要	
2 おもな遺構と遺物	
IV まとめ	8
図 版	9

例 言

- 1 本書は昭和63年8月23日から同年9月1日の間に、都市計画道路駅前線工事に伴って実施された発掘調査報告書である。
- 2 本書の編集は佐藤信之が行い、尖洞・トーレースは、山根洋子、菅田 明、小野紀男、佐藤が行った。
- 3 執筆はまとめを矢島宏雄が、他は佐藤が行った。
- 4 本調査の遺物、記録等はすべて更埴市教育委員会に保管されている。
なお、本調査関係の資料には小島遺跡を略して、「OJM」と表記した。



I 調査の概要

- 1 発掘調査委託者 更埴建設事務所
- 2 発掘調査受託者 更埴市遺跡調査会
- 3 発掘調査実施者 更埴市教育委員会・更埴市遺跡調査会
- 4 発掘調査場所及
び土地の所有者 更埴市大字小島
長野県
- 5 発掘調査遺跡名 小島遺跡 (市台帳No206)
- 6 調査の目的 公共事業 都市計画道路駅前線工事に伴う発掘調査
- 7 調査期間 昭和63年8月23日～同年9月1日 6日間
- 8 調査面積 550m²以上
- 9 調査方法 グリッド調査
- 10 調査費用 費用総額808,000円 (全額事業者負担)
- 11 調査会の構成
 - 会長 安藤 敏 更埴市教育委員会教育長
 - 理事 田沢佑一 更埴市議会議員
佐藤徳次 更埴市教育委員会教育委員長
山崎重信 更埴市区長会長
寺沢政男 更埴市役所総務課長
 - 監事 山崎栄二 更埴市社会教育委員会委員長
関京子 更埴市役所会計課長
 - 幹事 武井豊茂 更埴市教育委員会社会教育課長
西沢秀文 更埴市教育委員会社会教育課文化財係長
矢島宏雄 更埴市教育委員会社会教育課文化財係主事
佐藤信之 更埴市教育委員会社会教育課文化財係主事

- 12 調査団の構成
 - 団長 安藤 敏
 - 調査担当者 矢島宏雄
 - 調査員 佐藤信之
山根洋子 更埴市教育委員会社会教育課文化財係
 - 調査参加者 市川聰雄 伊藤恵子 関田栄子 小野紀男 久保啓子 小松由里子
小林芳白 坂口城子 白石正生 高野貞子 宮崎恵子 村山 豊
 - 事務局 武井豊茂 西沢秀文 矢島宏雄 佐藤信之 青木猛治 田中啓子
山根洋子 (社会教育課文化財係)



II 調査の経過

昭和63年6月、更埴建設事務所より、都市計画道路駅前線の工事について、市都市計画課を通して問合せがあったため、市教育委員会では小島遺跡があるため57条の提出が必要となることを通知した。6月24日、57条の提出があったため、市教育委員会では、周辺の店舗建設に伴う立会調査の際、遺跡が確認されていないので、今回も立会調査により保護にあたることと、県教育委員会へ通知した。立会調査は7月12日より実施されたが、7月20日、工事中壺が出土し埋蔵文化財が包蔵されていることが確認された。8月8日、更埴建設事務所、市都市計画課、市教育委員会により協議が行われ、発掘調査を実施することとなった。8月18日、更埴建設事務所より調査の依頼があり、8月20日、98条を提出した。8月22日、更埴建設事務所と市遺跡調査会の間に、調査費用808,000円で発掘調査委託契約が締結された。調査は工事の進行に合わせて8月23日より開始した。

経過

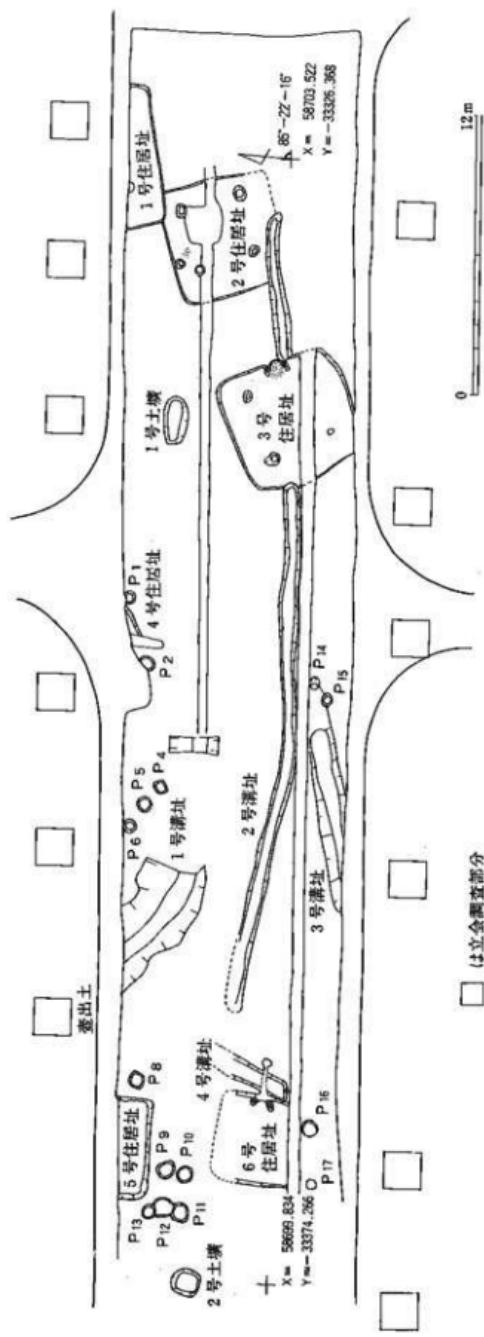
6月24日	57条提出
6月30日	立会調査を行うよう 県より回答
7月12日	立会調査実施
7月20日	埋蔵文化財検出
8月8日	保護協議
8月23日	道路北側部分より調 査開始、住居址検出
8月25日	北側調査終了
8月30日	南側調査開始
9月1日	調査終了 発掘調査日数 6日 延べ調査員数 19人 延べ作業員数 51.5人



1. 小島遺跡調査地点 2. 五輪堂遺跡 3. 森將軍塚古墳
第1図 遺跡位置図

(1 : 25,000)

第2図 落塚全体図

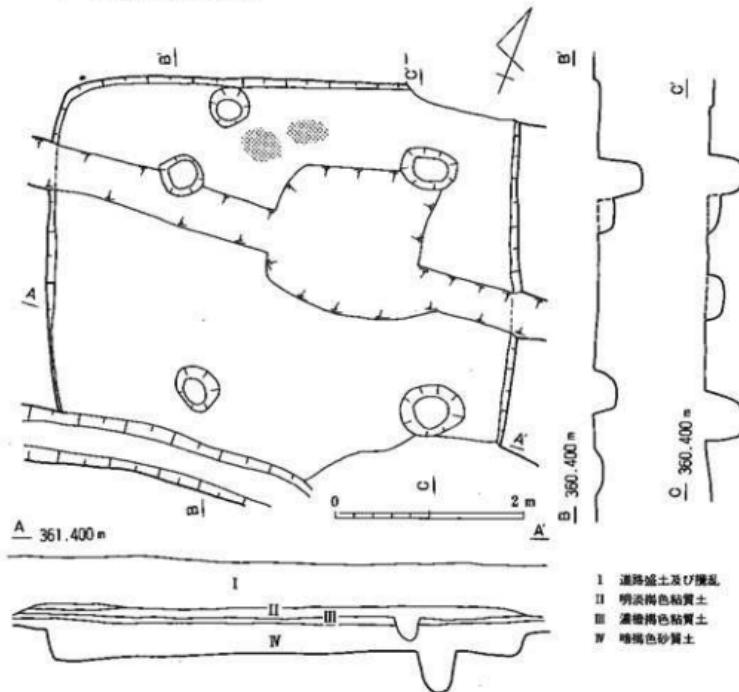


III 遺構と遺物

1 遺構の概要

今回の調査により検出された遺構は、道路から90cmほど下の褐色砂質土を掘り込んで構築されており、住居址6棟、溝4本、土塙2基とピットを検出した。調査区内には電話のケーブルが埋設されており、大きな擾乱となっていた。住居址は奈良時代から平安時代に属するもので、溝については年代を明らかにすることはできないが、2号溝址は2号住居址を切っており、4号溝址は6号住居址の煙道に切られている。また調査区内では、明らかな遺構を検出することはできなかったが、弥生時代の遺物も出土している。

2 おもな遺構と遺物



第3図 2号住居址

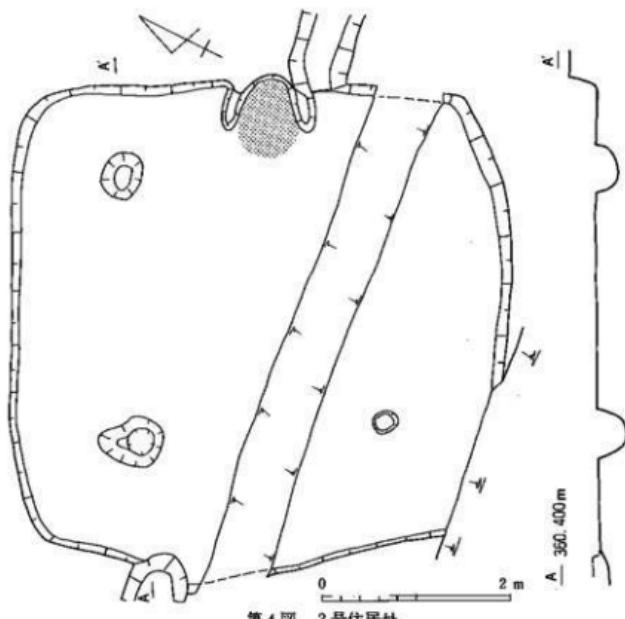
2号住居址

遺構 調査区東側より検出された遺構で、北東隅を1号住居址、南側を2号溝址に切られている。重機により掘り下げた際南側を掘りすぎたため、南壁は不明であるが、規模は5mほどの方形で、主軸をN-20°-Wに持つものと思われる。床面は褐色の砂質土中に作られているため平坦であったが、僅かに掘り下げるときれいな層となるため、部分的に窪みが突出している部分もある。壁高は断面で35cmほどを測るが、検出面からは最大15cmほどであり、検出は容易であった。カマドは北壁の中央付近に作られていたと思われるが、火床となる焼土を残すだけであった。柱穴は深さ40-25cmのものが4本、主軸よりやや東に寄って方形に配列されている。カマドの西側に見られるものは柱穴と考えるより、むしろカマドに付属するものであろう。

遺物 出土遺物は少なく、土師器では内面黒色処理された壺、長胴の甕、須恵器では壺、壺蓋、甕などの破片が見られるが、図示できたものは須恵器の壺と蓋のみであった。1・2は底径の大きな壺で体部は外反気味に開いており、底部にはヘラケズリ痕を顯著に残している。3・4は高台が付けられており、4の底部は高台より突出している。5は蓋で天井部を失っているが、口縁部の作りはていねいである。

3号住居址

遺構 調査区東側より検出された遺構で、南西隅が僅かに調査区外へと続いている。2号溝に



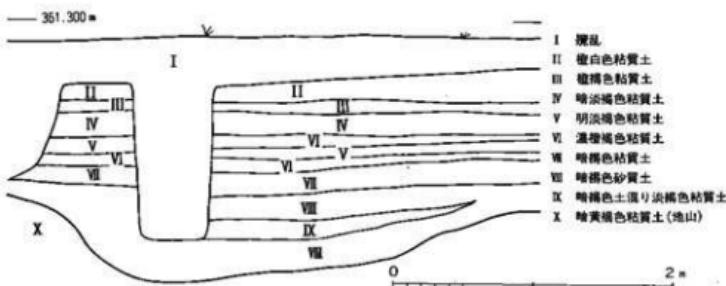
よって切られているが、床面まで達していない。規模は5.3mほどの隅丸方形で主軸をN-64°-Eに持つ。壁は明確に検出でき最大壁高30cmを測ることができる。床面は平坦であったが、軟弱であった。カマドは東壁中央に作られた粘土製で、袖は45cmほどの長さ、20cmほどの高さに存在していた。柱穴は4本が住居址の対角線上に配されていたと思われるが、1本は搅乱により失われている。

遺物 出土遺物は2号住居址より更に少ない。土師器には内面黒色処理された壺、長胴甕、小形甕、須恵器では壺、高盤、壺蓋、大甕の破片が僅かに出土している。1は高台付の壺で高台の端部は丸く仕上げているが強く外開している。2は高盤の壺部で内窵して開いており、口縁部は外反して水平となる。

1号溝址

遺構 調査区中央部分より検出された遺構で、北側は調査区外へと続いている。全体を調査できなかっただため、不明な点が多いが、幅2.5m深さ50~60cmほどで、断面形は基本的には逆台形状を呈している。平面形は円形あるいは、隅丸方形になる可能性もある。覆土は暗褐色砂質土の中に淡い褐色の粘質土がレンズ状に堆積しており、水などの流れた痕跡は認められなかった。

遺物 検出面全体を掘り下げていないため、出土遺物は少なく、岡化できたものも部分的な接合によるものである。1~3は高壺の壺部と脚部である。器面には指ナデの痕跡を顕著に残しており、一般的な高壺に見られるヘラミカキは施していない。4は底部が穿孔された甕で、内外面共ハケによって整えられているが、粘土紐の痕跡を明瞭に残しており、作りは良くない。5は球形甕になると思われる甕で、4同様粘土紐の痕跡を明瞭に残している。6は小形の甕で、やはりハケで整えられているが、作りは良くない。7は器台の脚部、8は甕の底部と思われる。9・10は立会調査の際に出土したものであるが、出土位置から見て本址に帰属するものと思われる。9はほぼ完形の壺で、底部にはヘラ状の工具で鋭く削られた穿孔を持っており、底部の周囲は粘土がはみ出し、突出している。器面はハケによって整えられており、球形の胴部から「く」の字状



第5図 1号溝址断面図

に外反し、段を有して口縁端部となる。10は器面を荒いハケによって整えられた壺で、溝内より出土した土器と同様に作りは荒い。

その他の遺物

出土遺物は非常に少なく、住居址内でも1棟に小破片が數10片ほどであった。1・2は6号住居址より出土したもので、1は北武藏型の甌で、体部は鋭いヘラケズリによって仕上げられており、口縁部は「く」の字状に外開している。2は高盤の脚部である。3は1号住居址より出土した甌で、体部は4mmほどの厚さに削られている。底部には剥離痕があり、台が付く可能性がある。

調査区内全域より弥生中期の遺物が出土している。伴う遺構は明らかではないが、ピットのうちいくつかは、この時代のものと思われる。4はピット16より出土したもので、口縁部を失っているがほぼ完形の壺である。胴部上半から頸部には地文として単節の細い縄文が施され、5本の太い沈線と降帯に刺突を施したものが1本巡らされている。胴部上半には工字文風の文様が5組施され、下半には条痕を「一」と「八」の字状に施し、それを沈線で囲んだものが3組みられる。5は地文にL Rの縄文を持ち、上部に沈線3本を、下部に同心円文を沈線で結んだものが巡らされている。6は小形の壺と思われ、胴部には同心円文を持ち内部に刺突を施している。

以下は破片であるが、7はR Lの縄文を施し口縁部を刻んでいる。8~14は櫛齒状工具による条痕を持つ口縁部破片で、口唇部には10が縄文、11・13には刻み、12には指による押圧の後縄文が施されている。条痕には羽状の他、斜位、横位が見られる。また13には同じ工具による列点も施されている。15~23は地文に縄文を持つもので、太い沈線が施された15~17は細頸の壺になるものと思われる。18にはボタン状の貼付があり頂部を刻んでいる。24は太い沈線で重なった櫛齒状を作り出している。25~51は条痕を持つ頸部破片で、条痕には横位、縦位、斜位、羽状、波状に施されたものがある。条痕の後25・26には刺突、27~29・37・51には沈線、38にはボタン状の貼付が行われている。52は頸部に2本の沈線を巡らされたもので、壺になると思われる。53は細かな条痕が施された底部破片である。

石器は4点が出土している。1は4号溝址付近より出土した磨製石庖丁で、刃部は両刃となりやや内湾し、両端は敲打により欠かれている。上部に穿たれた2孔は両面より穿孔されている。2は打製石斧状の石器であるが、刃部は側刃部となるため打製の石庖丁の可能性がある。3は周間に両面より剥離が施された円形に近い石器である。4は黒曜石製の石鎌で、下半を欠いている。

IV　まとめ

今回の発掘調査は、都市計画道路星代駅前線拡幅工事に伴い実施したものである。当初、側溝工事に合わせて立会調査を行ったところ、多数の土器片と遺構が確認され、道路改良工事により破壊されることが明らかとなったので、急換発掘調査を実施した。そのため、工事工程の変更がなされたが、主要県道を全面的に通行止めにすることや、迂回路を設けることもできず、また道路両側の商店の営業上の問題もあり、発掘調査は片側車線ごとの調査となり、調査期間も6日間と短期間の調査となった。

1. 遺跡の状況について

小島遺跡及び隣接する栗佐遺跡群は、更埴市遺跡地図上では本県道を境に南北に分けられている。本調査地周辺のこれまでの拡幅工事や、店舗建設工事に伴う立会調査では、1~2片の土器片が出土するのみで、遺構の検出はみられなかったので、遺跡は散布地として登録されていた。

本調査地の北側に300m程寄った五輪堂遺跡は、古墳時代から中世に至る大集落址が調査されている。また南側に200m程寄った武台遺跡でも同様に重複する住居址が確認されている。一方東西方向に行われている立会調査結果から、西側国道18号線寄りでは、包含層は若干深くなり、東側星代駅寄りでは砂礫層となっている。遺跡は、幅30m程の南北に続く千曲川の中洲的な微高地上に立地するものと考えられる。さらに、弥生時代中期初頭には水辺での水田化、古墳時代中期には墓域化、奈良時代末から平安時代初めにかけて集落化したものと推察される。

集落化にあたっては、検出された住居址の状況から南北両大集落のほぼ中間に位置しており、大きな展開はなかったものと考えられる。

2. 遺構・遺物について

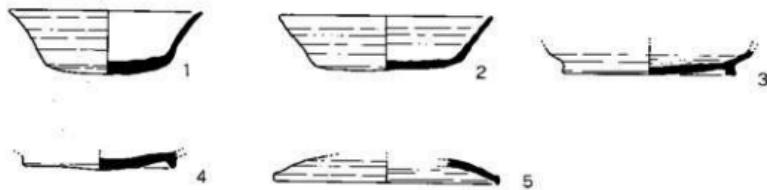
今回の部分的な調査では明らかにすることはできなかったが、弥生時代中期初頭の土器と共に石庵丁が出土したことから、本調査地周辺に水田址の存在が考えられ、今後の調査にあたっては注意を要するものである。

幅2.5m、深さ50~60cm程の溝址は、底部穿孔した有段口縁壺形土器・甕形土器をはじめ、高壇・器台・小形甕等の土器を一括溝内より出土し、方形周溝墓の一部と考えられるものである。土器はいずれも作りは良くないもので、仮器化されている。この時期においては、すでに県下最古の前方後円墳森将軍塚古墳が造られていることから、一方では弥生時代からの墓制である周溝墓が集落址の近くに造られており、古墳時代の社会構造の解明に問題提起するものである。

検出された住居址は、五輪堂遺跡の当該期の住居址と比べ遺物の少なさが注目された。

最後に、本調査にあたって、周辺住民のみなさんはじめ、更埴建設事務所、市都市計画課及び更埴建設課など関係のみなさんの御協力に対し、厚く感謝を申し上げます。

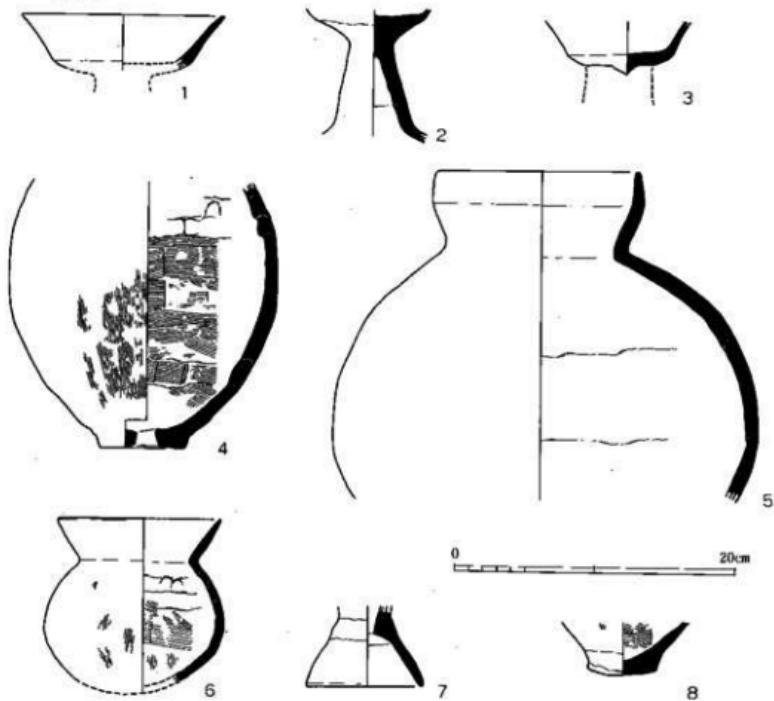
2号住居址

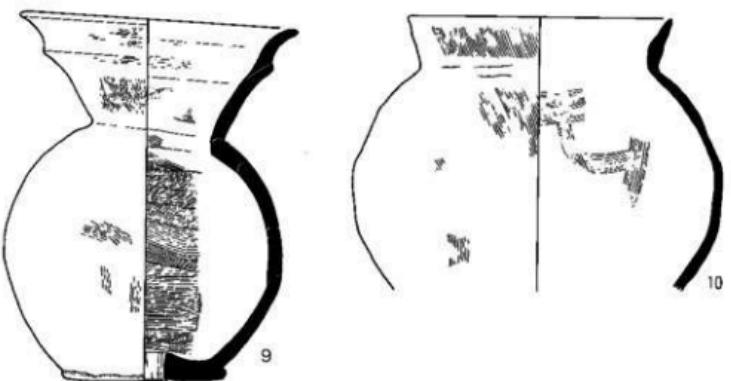


3号住居址

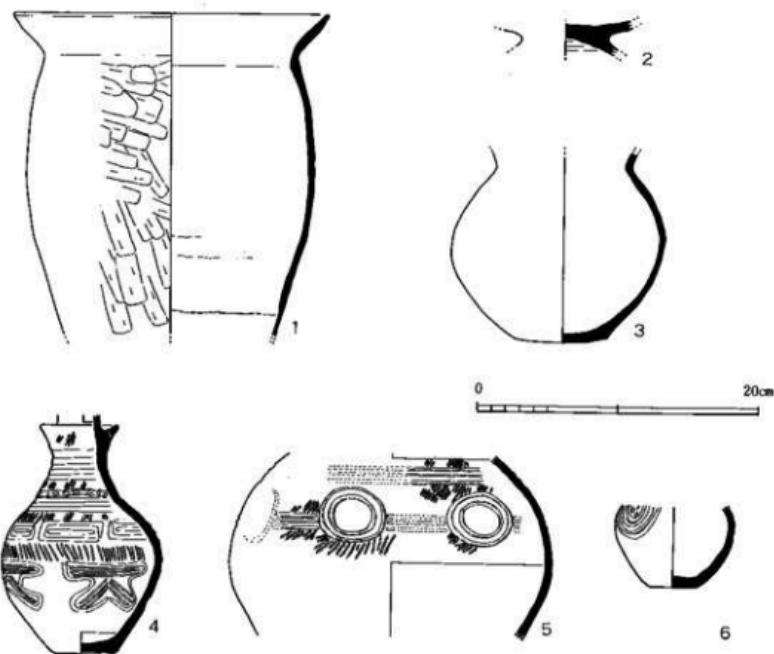


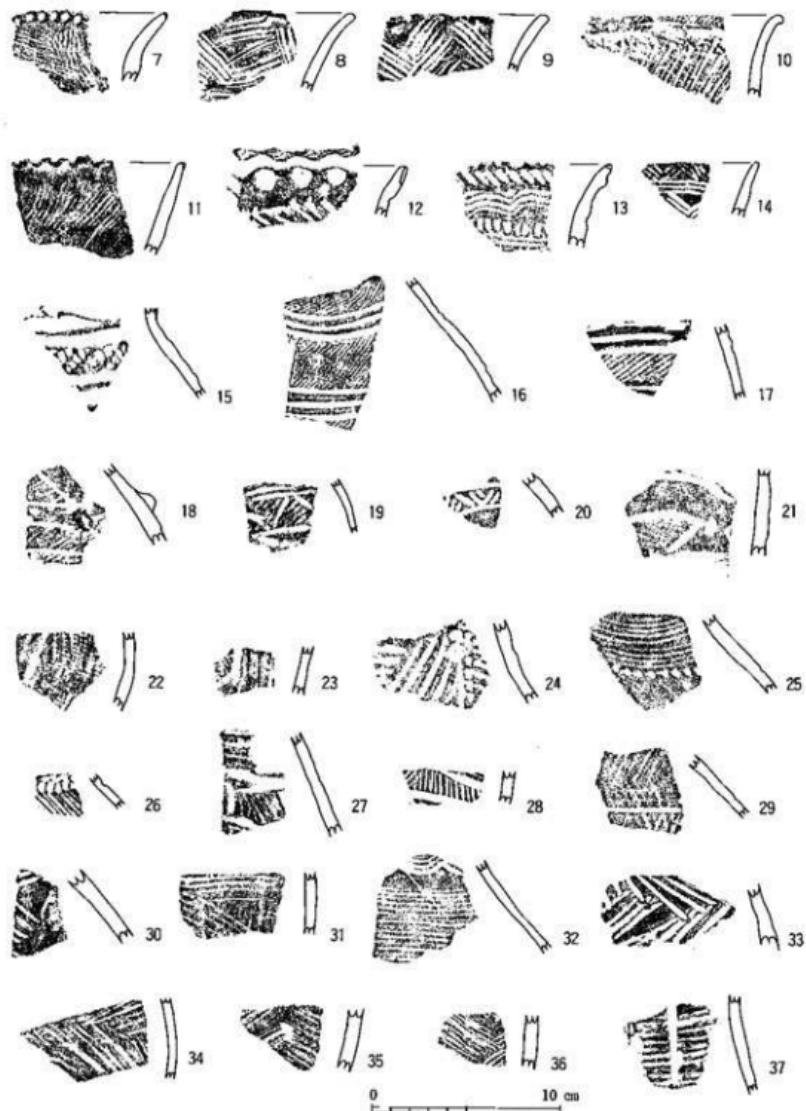
1号溝址



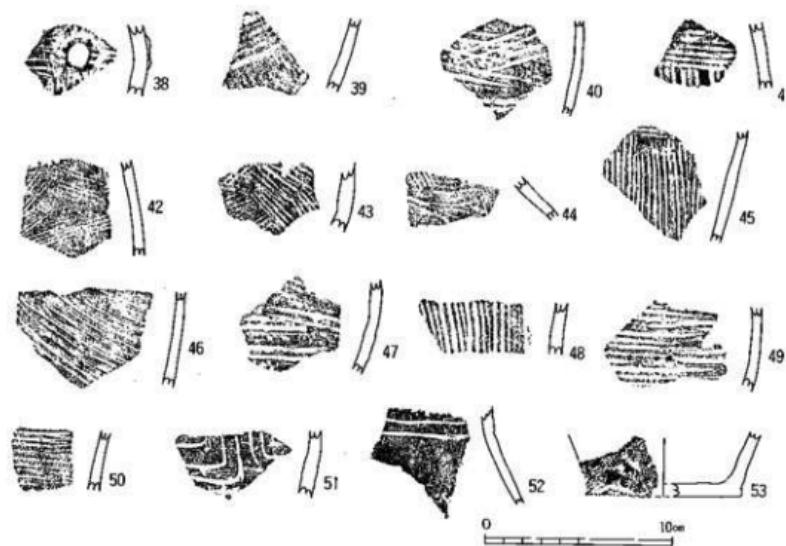


その他の遺物

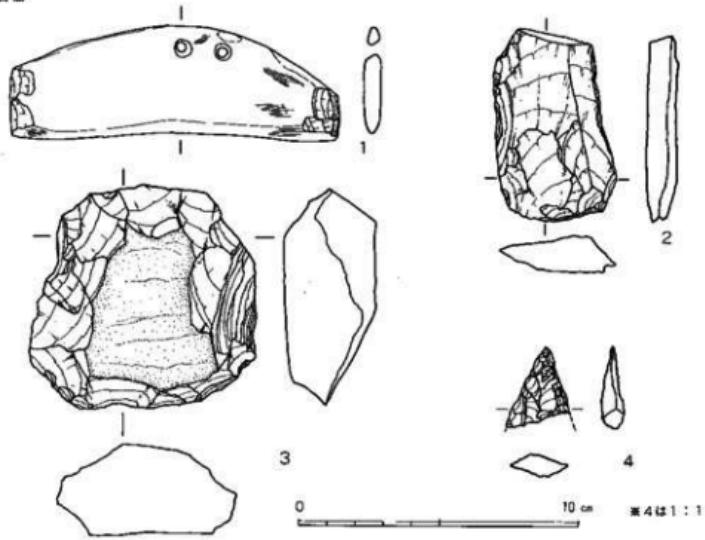




図版 4



石器





発掘調査風景



2号住居址

図版 6



3号住居址



1号溝址



2-9
1号溝址



2-4
その他の遺物



2-5

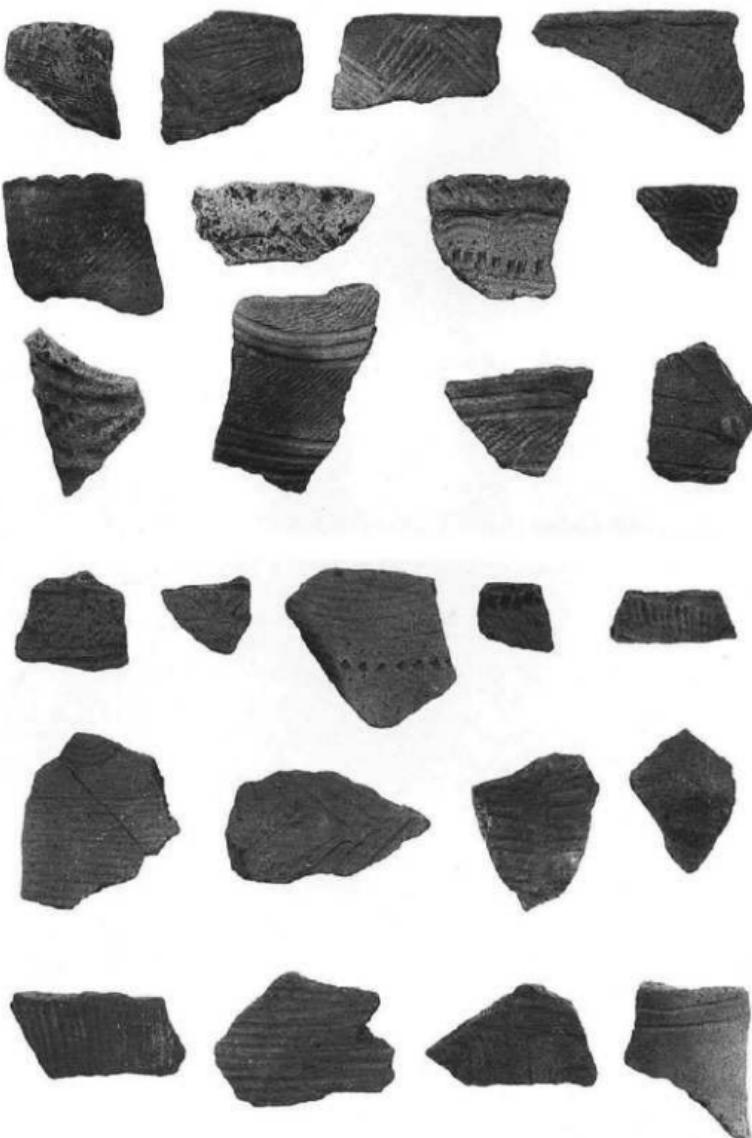


2-6



4-1, 2, 3.
石器





その他の遺物（弥生時代の土器）

小島遺跡—都市計画道路駅前線工事に伴う発掘調査報告書—

発行日 平成元年3月31日

編集 長野市遺跡調査会

発行 長野市教育委員会

〒387 長野市更埴大字杭瀬下84番地

TEL (0262) 73-1111

印刷 信毎書籍印刷所

〒381 長野市西和田470

TEL (0262) 43-2105
